

## 12. 歯根未完成歯抜髄後の創傷治癒について

◦長谷川喬（北九州市・長谷川歯科）

木村光孝（九歯大・小児）

歯根未完成歯の歯髄処置に関して、とくに抜髄後の創傷治癒についての報告は非常に少ない。過去の文献をみても臨床的あるいは実験的な報告はあるが、完全な抜髄が行われておらず、残髄後の変化を観察し、その後の根尖閉鎖の報告をしたものが少なくないようである。そこで演者らは完全なる抜髄操作が行われたかどうかを確認した後、その後の創傷治癒を観察したので報告する。

## 13. 乳歯抜歯創の創傷治癒に関する病理組織学的研究

◦三箇正人，木村光孝

（九歯大・小児）

日常の小児歯科臨床において、乳歯はう蝕の進行が早く保存不可能と診断され、抜歯される場合が非常に多い。抜歯窩の修復過程および周囲組織の変化に関する研究は多く、そのほとんどが永久歯によるものである。そこで演者らは生後3カ月前後の幼犬の乳臼歯歯牙欠損後の抜歯窩および周囲組織の変化に関して病理組織学的に検索し、さらにラベリング法、マイクロラジオグラフィにより検索を行っているので報告する。

## 14. 乳歯放射線照射の口腔組織への影響について

◦池田政信（北九州市・池田歯科）

木村光孝（九歯大・小児）

近年歯科の分野において、放射線治療の進歩発展はめざましいものがある。とくに口腔領域の悪性腫瘍に対しては放射線治療の占める割合は多いが、放射線の照射により、

口腔組織に与える影響も大なるものがあると思われる。そこで演者らは乳歯に放射線照射を行い、口腔組織の変化を検索しているので報告する。

## 15. 思春期の顎関節症に対する臨床的対応の考察

○大野秀夫, 森主宜延, 小椋 正

(鹿大・歯・小児)

思春期の顎関節症は、思春期の持つ世代特性からその影響は大きいと考えられる。しかしながら、過去、基礎的調査ならびに臨床的対応について十分な検討がなされていない。演者らは、この疾患の臨床体系の確立を計るため、その原因論を文献展望より考察し、一応の臨床の流れを設定し、その代表的治験例を4例、今回報告する。

## 16. 治療内容と小児患者の協力性の推移について

○立川義博, 井植浩雄, 二木昌人, 中田 稔

(九大・歯・小児)

小児の歯科治療を行う際、患児の協力性が常に問題となる。不協力児では特にこのことが重要となるが、通常の場合においても、治療内容等と関連して、協力性は同一患児でも変化してゆく。そこで我々は、処置記録表に臨床的に判別できる程度の協力度も併記して、各来院時における患児の Control に役立てている。今回、我々の外来を受診した小児の協力度の変化を追跡して、小児の協力性ということについて考えてみたので報告する。